

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	e		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

教育・保育について、文献を読んで協議したり、実技研修や領域に関わる研修をしたりする中で、幼児期の教育・保育の重要性を認識するとともに、研究の方法と方向性を見出していく。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

幼児期にふさわしい園生活の展開等について学びながら、各自が関心のある事柄を模索していく。また、図書の読後感想発表などを通して、卒業研究への具体的な方向性を定めていく。

授業計画

- オリエンテーション
- 演習の取組について
- 幼児期の教育についての資料を読み、協議する
- 「幼稚園の生活・四季を感じて」①グループで教材作成
- 「幼稚園の生活・四季を感じて」②グループで教材作成
- 「幼稚園の生活・四季を感じて」③グループで発表し協議
- 「幼稚園の生活・四季を感じて」④グループで発表し協議
- 図書館の利用と情報検索について
- 幼児教育に関する文献を読んで協議①
- 幼児教育に関する文献を読んで協議②
- 幼児教育に関する文献を読んで協議③
- 研究の意義と方法について①
- 研究の意義と方法について②
- 研究の意義と方法について③
- 研究の意義と方法について④
- まとめ・演習Ⅱに向けて

授業の方法

収集した資料や文献をもとに、書いてまとめる・協議する・発表するといった方法を取り入れ、特に文章表現力の向上をめざす授業とする。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

- ①提出を求めるワークシートや感想レポート等について、授業内で評価・助言を行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

欠席について

1回の欠席につき5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する

参考図書

授業内で随時紹介する。

留意事項

主体的に授業に臨み、自分から進んで研究に取り組む気持ちを培うこと。学外ボランティアや幼稚園行事等に積極的に参加すること。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

授業の到達目標

家族研究の基礎を学び、卒業研究のテーマを設定する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

演習Ⅰに引き続き、家族研究のための基礎知識を学ぶ。調査、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成などを通して、家族やその生活についての理解を深める。

授業計画

- 現代家族の問題
- 先行研究を学ぶ 1
- 先行研究を学ぶ 2
- 先行研究を学ぶ 3
- 先行研究を学ぶ 4
- 先行研究を学ぶ 5
- 先行研究を学ぶ 6
- 調査・研究の報告 1
- 調査・研究の報告 2
- 調査・研究の報告 3
- 調査・研究の報告 4
- 調査・研究の報告 5
- 調査・研究の報告 6
- 調査・研究の報告 7
- まとめ

授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

なし。

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「現代家族関係論」を履修しておくことが望ましい。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	d		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、 スクールカウンセラ（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けての文献の収集・要約・調査などを行う。自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、共同研究を通じて必要な研究法・手続きについて学び、最後に自分の研究テーマと研究計画の設定を試みる。要約文は毎回提出とする。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 共同研究発表の準備
- 3 共同研究発表の準備
- 4 共同研究発表の準備・反省会
- 5 各自の研究発表1
- 6 各自の研究発表2
- 7 各自の研究発表3
- 8 研究法・手続きについての話し合い1
- 9 研究法・手続きについての話し合い2
- 10 各自の研究発表4
- 11 各自の研究発表5
- 12 各自の研究計画の立案と発表4
- 13 各自の研究計画の立案と発表5
- 14 卒業研究発表・質疑応答の練習
- 15 まとめ

授業の方法

共同研究の発表後、各自で論文の研究・要約・発表を実施し、論文作成に必要な研究法や手続き、調査を実際に体験する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

共同研究への取り組みの状況と、毎回の提出課題を評価の対象とする。

欠席について

欠席は1回につき5点、遅刻は2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

受講生の提出する論文の要約文を元に文献講読を実施するため、テキストはその都度適宜紹介することとする。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

課題は毎週提出とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	e		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

討議を重ねて互いに学び合いながら、各自が研究したい内容について熟考する。そして、研究テーマの方向性を確かなものにしていく。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

幼児教育における環境構成や教材研究について学びながら、幼児教育の重要性を認識する。あわせて、各自の興味・関心に応じたテーマを見出せるように、段階を追って授業を行う。

授業計画

- 1 演習Ⅱの進め方について共通理解する
- 2 課題レポートの推敲をし、考察を深めて再作成する①
- 3 課題レポートの推敲をし、考察を深めて再作成する②
- 4 秋をテーマに保育を考えてみよう①
- 5 秋をテーマに保育を考えてみよう②
- 6 秋をテーマに保育を考えてみよう③
- 7 秋をテーマに保育を考えてみよう④
- 8 文献をもとにレポートを作成・発表して協議する①
- 9 文献をもとにレポートを作成・発表して協議する②
- 10 教育実習での学びを研究テーマに活かす①
- 11 教育実習での学びを研究テーマに活かす②
- 12 卒業研究に向けて見通しを立てる①
- 13 卒業研究に向けて見通しを立てる②
- 14 卒業研究に向けて見通しを立てる③
- 15 演習Ⅱを振り返り、学びの確認をする

授業の方法

文献熟読後のレポート作成を中心しつつ、教材研究・教材作成・模擬保育なども取り入れて、主体的に取り組むをめざす授業をする。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

①提出を求めるレポート等について、授業内で評価と助言を行う。
②平常点50% 定期試験50%

欠席について

1回の欠席につき5点の減点とし、遅刻は2点減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

研究を進めるために、主体的に文献等の収集などに努めること。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	e		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標
 演習Ⅰ・Ⅱの成果を踏まえてテーマを確定し、研究計画を立案して卒業研究を進めていく。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を育成する。

授業の概要
 研究計画をもとに、文献や資料等の収集と読書に努め、研究テーマに沿って、主体的に研究を進めていく。また互いの研究文をもとに協議し、考察を深められるようにする。

授業計画

- 1 研究テーマと研究方法の確認(1)
- 2 研究テーマと研究方法の確認(2)
- 3 研究計画の立案(1)
- 4 研究計画の立案(2)
- 5 各自の研究内容について発表とディスカッション(1)
- 6 各自の研究内容について発表とディスカッション(2)
- 7 各自の研究内容について発表とディスカッション(3)
- 8 各自の研究内容について発表とディスカッション(4)
- 9 各自の研究内容について発表とディスカッション(5)
- 10 研究の進捗状況について報告(1)
- 11 研究の進捗状況について報告(2)
- 12 研究の進捗状況について報告(3)
- 13 研究の進捗状況について報告(4)
- 14 まとめと今後の展望(1)
- 15 まとめと今後の展望(2)

授業の方法
 研究内容や取組み状況の報告・発表を通して、討議しあうことを中心とする。

準備学修
 Webで参照すること

課題・評価方法、その他
 ①提出を求めるワークシートや感想レポート等について、授業内で

評価・助言を行う。
 ②平常点50%、定期試験50%

欠席について
 欠席1回につき5点減点とし、遅刻は2点減点とする。

テキスト
 必要に応じて適宜紹介する。

参考図書
 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレール館

留意事項
 研究テーマに関する文献や資料を主体的に収集すること。発表当日は必ず資料を持参すること。

教員連絡先
 sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

授業の到達目標
 卒業研究を完成させる。研究する視点や態度と論理的に書く力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要
 プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して、研究内容を深める。全体指導と個別指導を重ねて、卒業研究を完成させる。

授業計画

- 1 演習と卒業研究の進め方
- 2 研究発表と質疑応答 1
- 3 研究発表と質疑応答 2
- 4 研究発表と質疑応答 3
- 5 研究発表と質疑応答 4
- 6 研究発表と質疑応答 5
- 7 研究発表と質疑応答 6
- 8 研究発表と質疑応答 7
- 9 研究発表と質疑応答 8
- 10 研究発表と質疑応答 9
- 11 研究発表と質疑応答 10
- 12 卒業研究の要約
- 13 卒業研究の修正
- 14 卒業研究の発表
- 15 まとめ

授業の方法
 プレゼンテーションやディスカッションを多くとり入れる。

準備学修
 Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
 レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 欠席1回につき2点減点する。

テキスト
 なし。

参考図書
 授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先
 yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	d		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、 スクールカウンセラ（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究作成のために、全体指導と個別指導を実施する。研究経過の発表や討議を重ねながら、卒業研究を完成させる。

授業計画

- 1 調査結果のまとめ1
- 2 調査結果のまとめ2
- 3 調査結果のまとめ3
- 4 結果報告1
- 5 結果報告2
- 6 結果報告3
- 7 結果報告4
- 8 まとめと考察1
- 9 まとめと考察2
- 10 まとめと考察3
- 11 要約作成・発表1
- 12 要約作成・発表2
- 13 要約作成・発表3
- 14 研究発表1
- 15 研究発表2

授業の方法

卒業研究の進捗状況の報告、プレゼンテーションと質疑応答が中心となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題の提出状況、演習への参加状況を評価の対象とする。

欠席について

1回の欠席につき5点、遅刻につき2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

受講生の研究テーマに応じて適宜紹介する。

参考図書

適宜紹介する

留意事項

心理統計法を受講していることが望ましい。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	e		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

テーマを深く掘り下げて研究を進め、その成果を卒業研究としてまとめる。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

研究テーマに沿って文献や資料の分析を行い、それをもとに報告と考察を繰り返しながら、研究を進め、完成していく。

授業計画

- 1 研究の進捗状況の確認(1)
- 2 研究の進捗状況の確認(2)
- 3 研究の進捗状況の確認(3)
- 4 研究の報告と討議(1)
- 5 研究の報告と討議(2)
- 6 研究の報告と討議(3)
- 7 研究の報告と討議(4)
- 8 研究の報告と討議(5)
- 9 研究の報告と討議(6)
- 10 研究の報告と討議(7)
- 11 研究の修正とまとめ(1)
- 12 研究の修正とまとめ(2)
- 13 研究の修正とまとめ(3)
- 14 最終報告とまとめ
- 15 最終報告とまとめ

授業の方法

各自の報告や全体討議とともに、個別指導を取り入れて授業を進める。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

①提出を求めるワークシートや感想レポート等について、授業内で評価・助言を行う。

②平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回の欠席につき5点減点とし、遅刻は2点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「保育所保育指針解説」フレーベル館

留意事項

自ら責任をもって計画的に取り組むこと。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
発達心理学			17201	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員、上級教育カウンセラー			

授業の到達目標

人間の心身の発達と行動を、完成されたものとして丹念に記述するだけでなく、それが現状に至る経緯を跡付けるとともに、現在も変化あるものとして捉え、その形成を実践の中で支援することができる視点を育成する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、E（倫理）を養う。

授業の概要

人間の心身は、他者を含む環境との相互的関わりを通して発達していくことを、代表的な発達・学習理論を通じて紹介していく。また、精神活動の成立と展開にとっての初期経験の重要性、生涯発達という視点の大切さに触れながら、特に乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達等についての具体的な保育・教育実践の課題を考察する

授業計画

- 1 精神機能を発生的に把握するという事 生物としての発生
- 2 精神機能を発生的に把握するという事 遺伝と環境
- 3 発達段階論とPiagetの発達理論の成立
- 4 知的精神機能の発達:感覚運動期1(新生児期)
- 5 知的精神機能の発達:感覚運動期2(乳幼児期)・運動の発達
- 6 知的精神機能の発達:前操作期1(幼児期)・言語の発達
- 7 知的精神機能の発達:前操作期2(幼児期)・認知の発達
- 8 知的精神機能の発達:具体的操作期(学童期)・動機づけ・集団づくり
- 9 知的精神機能の発達:形式的操作期(学童期・青年期以降) 学習活動の在り方
- 10 初期経験と発達:野生児の例から
- 11 対人関係と発達:愛着、社会性、遊びの発達
- 12 対人関係の発達:コミュニケーション能力の発達
- 13 発達研究における生態学的視点
- 14 発達における障害の位置づけと診断・療育
- 15 人格としての生涯発達およびまとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した発達に関連する課題に毎時間回答しながら学習を進める。

ら学習を進める。

準備学修

講義は各回が前回を前提として進められるので、毎回の講義内容をよく復習して授業に臨むようにしてください。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内規則に準ずる

テキスト

必要な場合授業時に指示する

参考図書

佐藤眞子編 『人間関係の発達心理学 2 乳幼児期の人間関係』 培風館
川島 夫、渡辺弥生編著 『図で理解する発達—新しい発達心理学への招待—』 福村出版 2010

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容総論			17205	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示されている内容について十分に理解するとともに、教育・保育の歴史の変遷や現在の取り巻く状況を理解する。また、基礎的・総合的に乳幼児期の教育・保育及び保育者の役割などについて理解する。この科目ではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み解きながら、保育内容・子ども理解・教師の役割・保護者との連携などについて、段階を追って学修を進める。情報機器及び教材の活用を図りながら、具体的場面を想定した指導実践力の基礎作りをしていく。

授業計画

- 1 保育の基本(1)幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園等について
- 2 保育の基本(2)「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の重要性について
- 3 保育内容の歴史の変遷
- 4 子どもの発達の特性
- 5 環境を通して行う教育、遊びを通しての総合的な指導(情報機器及び教材の活用を含む)
- 6 養護と教育、乳児保育、長時間保育
- 7 保育内容 5 領域、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
- 8 遊んでみよう(1)歌って手遊び(教材収集)
- 9 遊んでみよう(2)歌って手遊び(教材研究)
- 10 遊んでみよう(3)歌って手遊び(グループ発表)
- 11 保育の展開(1)発達や学びの連続性、小学校教育との円滑な接続
- 12 保育の展開(2)保護者との連携、家庭生活との連続性
- 13 保育の展開(3)子育ての支援、多文化共生の保育
- 14 保育の展開(4)特別な支援を必要とする子どもの保育
- 15 乳幼児期の保育・教育を取り巻く現状と課題、定期試験

授業の方法

講義を中心とするが、情報機器や教材を活用するとともに、ワーク

やグループディスカッションなどを多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①授業内で小テスト等を5回程度実施し、フィードバックを行う。
- ②ワークシート25% 授業に臨む姿勢25% 定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点

テキスト

「幼稚園教育要領解説」(文部科学省)「保育所保育指針解説」(厚生労働省)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(内閣府・文部科学省・厚生労働省)「あそびうた大全集200」(永岡書店)「実践!造形あそび」(ナツメ社)

参考図書

幼稚園教育指導資料 第5集「指導と評価に生かす記録」(チャイルド社)
「ようちえんあしたもいきたいな」(全国公立幼稚園長会)

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育学原理			17617	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
須河内 優子	選択	2	幼稚園教諭			

授業の到達目標

幼児教育の意義や目的、歴史、さらに今日の幼児教育の課題について学び、幼児教育の原理について理解する。また、幼児教育における「環境」「あそび」や、幼稚園教育要領についての理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）を目指す。

授業の概要

幼児教育の意義や目的、歴史を学び、そのことを踏まえた上で、幼稚園教育要領を、具体的な園での子どもの姿と照らし合わせながら学んでいく。また、幼児教育におけるさまざまな問題について、ディスカッションや発表を通して、関心を深めていく。

授業計画

- 1 オリエンテーション 幼児教育の意義
- 2 幼児教育を取り巻く環境
- 3 幼児教育の歴史
- 4 幼稚園教育要領の歴史
- 5 幼児教育の課題
- 6 教育観と子ども観 ①歴史
- 7 教育観と子ども観 ②自分の教育観・子ども観
- 8 幼児教育に影響を与えた人物 ①日本
- 9 幼児教育に影響を与えた人物 ②諸外国
- 10 幼稚園教育要領 ①幼稚園教育の基本
- 11 幼稚園教育要領 ②幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
- 12 幼児教育における「環境」
- 13 幼児教育における「あそび」 ①子どもにとっての「あそび」
- 14 幼児教育における「あそび」 ②保育者の「あそび」へのかかわり
- 15 まとめ

授業の方法

参考資料を配布し、それに沿って講義する。また、DVD視聴やディスカッション、発表も取り入れる。

準備学修

「Webで参照すること。」

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

幼稚園教育要領

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育課程論			17623	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	選択	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

教育課程を編成する重要性の理解と指導計画作成の具体的な方法の習得をめざす。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

幼児が日々充実した園生活を送り、健やかに成長していくためには、しっかりととした教育課程・全体的な計画編成のもと指導計画が作成され、それに基づいた環境構成や援助による教育実践が必要であることを理解する。それとともに、教育現場での実践事例や情報機器の有効な活用等を通し、幼児の主体性と指導者の教育的意図のバランスを理解するとともに、指導計画の作成とその評価と改善の方法についての習得をめざす。

授業計画

- 1 幼児期の教育・保育の基本
- 2 幼児期の特性と幼稚園教育の役割重要性
- 3 教育課程(全体的な計画)編成の意義と目的
- 4 教育課程(全体的な計画)の編成から指導計画の作成と実践。
- 5 指導計画(長期・短期)作成の際の留意事項
- 6 園生活や遊びを通した幼児期の発達と学びの過程 3歳児の生活 ①
- 7 園生活や遊びを通した幼児期の発達と学びの過程 4歳児の生活 ②
- 8 園生活や遊びを通した幼児期の発達と学びの過程 5歳児の生活 ③
- 9 ねらい及び内容・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の考え方と指導計画の関係
- 10 月の指導計画(月案)作成の実際 ①長期的な視野で教育内容をとらえ月案を作成する
- 11 月の指導計画(月案)作成の実際 ②グループ単位で作成した月案を発表し合う
- 12 週の指導計画(週案)作成の実際 ①領域を総合的にとらえ豊かな体験がえられる週案を作成する
- 13 週の指導計画(週案)作成の実際 ②グループ単位で作成した週案を発表し合う
- 14 日の指導計画(日案)作成の実際 ①幼児期にふさわしい生活の展開を考慮した日案を作成する
- 15 教育課程及び指導計画の実践から評価と改善の重要性とカリキュラムマネジメントの意義について理解する

定期試験

授業の方法

資料を配付し、それに沿って授業を進める。DVD視聴や指導計画の作成をもとにして、グループで話し合い意見発表をして、互いに学びあえるようにする。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

①ワークシートとレポートについては、授業内で評価・助言をする。
②ワークシート等の提出30% 授業に臨む姿勢20% 定期試験50%

欠席について

1回の欠席につき、3点の減点とする。

テキスト

「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)

参考図書

幼稚園教育指導資料集 第1集「指導計画の作成と保育の展開」(フレーベル館) 第3集「幼児理解と評価」(ぎょうせい) 「保育とカリキュラム」(ひかりのくに)

留意事項

図書館にある「保育とカリキュラム」や各領域の指導書を読んだり、様々な絵本や歌曲に親しんだりして、保育の視野を広げること。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法			17684	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純	選択	2	公立小学校勤務。指導主事経験あり。 総合的な学習の時間では、国際理解のテーマで研究発表会も行う。			

授業の到達目標

教育課程の意義、法的根拠、外観を理解する。現行の教育課程編成の要点、配慮事項について、発表・討議を通して深めていく。また、総合的な学習の時間の意義や目標、各小学校の目標に沿った指導計画の作成、授業づくり・指導法についてのポイントを明確にしていく。

KaiseiパーソナリティーのI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

学校現場での具体的な教育課程、カリキュラム・マネジメントの進め方を伝えていく。法令や学習指導要領解説と学校現場の実践と成果（そこにある課題や悩み、子供たちの姿、地域の教育力）とをつないで学生の理解を図っていく。

また、総合的な学習の時間の指導法においては、目標に基づいた指導計画、単元計画の作り方、事例研究、指導案作りを進めていく。

授業計画

- 1 教育課程改定の経緯と基本原則
- 2 教育課程の基準
- 3 学習指導要領の改訂の変遷
- 4 特色ある教育の推進とカリキュラム・マネジメント
- 5 教育課程の編成
- 6 教育課程の授業改善
- 7 教育課程の改善と学校評価(教育課程におけるPDCA)
- 8 児童の発達の支援(発達支援と個に応じた指導の充実)
- 9 道徳教育推進上の配慮事項(豊かな体験活動、家庭・地域社会・学校間の連携)
- 10 総合的な学習の時間の歴史と目標
- 11 総合的な学習の時間の指導計画
- 12 総合的な学習の時間の単元計画
- 13 総合的な学習の時間の実践と評価
- 14 総合的な学習の時間の指導の具体的事例に学ぶ
- 15 教育課程論と総合的な学習の時間の指導法の振り返り・定期試験

授業の方法

学生の発表・論述を大切に、そこから生まれる疑問について理解を深めていく。学校現場での具体的な実践を常にはさむことで、現

場での取り組みについて共感を深めていく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題：与えられたテーマに対して自分の考え、感想を含めたプレゼン発表を行う。

評価方法：平常点50% 定期試験50%

欠席について

欠席は1回につき4点減点。

テキスト

小学校学習指導要領解説（平成29年告示）「総則」「総合的な学習の時間」 文部科学省

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育・教職実践演習（幼・小）			17686	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子／佐原 信江	選択	2	公立小学校教員、公立幼稚園教員			

授業の到達目標

保育・教職課程科目の学修や学校園での現場学習等を通じて、保育士・教員として必要な資質能力が、実践力としてどのように統合されたかを最終的に確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

実習で学んだことを振り返り、課題を確認するとともに保育者・教育者としての役割と責務についての認識を深めていく。職務への使命感、社会性や対人関係能力、また、学級経営能力や指導力を高め、保育者・教育者としての資質の向上を目指す授業を進める。

授業計画

- 1 授業概要の説明、受講の心構え、これまでの学修の振り返り
- 2 保育・教職の意義や保育士・教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等についての討議
- 3 社会性や対人関係能力(職場、保護者・地域との人間関係の構築等)についての講義・グループ討議
- 4 幼児・児童理解や学級経営についての講義・グループ討議
- 5 保育計画案・学級経営案の作成
- 6 保育計画案・学級経営案の発表とグループ討議
- 7 学校園現場の見学・調査①
- 8 学校園現場の見学・調査②
- 9 社会性、対人関係能力、幼児・児童理解、学級経営についてのグループ討議
- 10 保育・教科の指導力についての講義・グループ討議
- 11 模擬保育・模擬授業と討議①
- 12 模擬保育・模擬授業と討議②
- 13 事例研究とロールプレイング①
- 14 事例研究とロールプレイング②
- 15 目指す教師像と自己課題の確認

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

事前に課題を提示するので、レポートや作品等を作成すること。具体的な課題については、保育・教職（幼・小）の各担当教員から提示する。

課題・評価方法、その他

①レポートや作品等の提出物については、担当教員による批評とアドバイスをを行う。

②評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

各担当教員が参考図書の中から指定する。

参考図書

厚生労働省『保育所保育指針解説』、文部科学省『幼稚園教育要領解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレール館、文部科学省『小学校学習指導要領』、わかば社『教職実践演習』これまでの学びと教師への歩み

留意事項

自己目標・課題をもって意欲的に授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（幼稚園）Ⅰ	教職幼		17691	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	選択	1	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

教育実習とは何か、幼稚園に勤務する教諭の仕事とは何かなど、教育実習に向けて準備すべき実際や心構えを学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）の育成をめざす。

授業の概要

1週間の観察・参加実習にあたり、教育実習の目的・意義、特に実習記録のとり方について具体的に学んでいく。加えて、人権感覚を養うなど教師としての資質向上をめざす内容を取り入れている。

授業計画

- 1 幼稚園教諭とは
- 2 教育実習の意義と目的
- 3 教育実習園の選択と決定
- 4 教育実習園の教育などの理解
- 5 教員に求められる資質
- 6 週間実習に向け、園への依頼の仕方
- 7 実習記録の取り方と記載について
- 8 実習記録の記載に際しての留意事項
- 9 実習に際しての具体的な留意事項
- 10 実習後について（礼状の作成など）
- 11 1週間実習を終えての成果や課題について協議①
- 12 1週間実習を終えての成果や課題について協議・発表②
- 13 実習記録について個人指導及び指導
3週間実習に向けて課題の整理
- 14 実習記録について個人指導及び指導
3週間実習に向けて課題の整理
- 15 実習記録について個人指導及び指導
3週間実習に向けての準備

授業の方法

テキストやプリントをもとに、具体的な内容で授業を進める。実習後は、幼稚園から返却された実習記録や評価をもとに、自らの成果と課題を明確にする。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

①提出を求めるワークシート等について、授業内で評価と助言を行う。
②平常点70%、定期試験30%

欠席について

基本的に欠席は認められない。やむをえず欠席する時は必ず事前に申し出ること。その場合のみ1回につき3点の減点とする。

テキスト

本学作成の「幼稚園教育実習の手引き」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館
「あそびうた大全集200」永岡書店 「実践！造形あそび」ナツメ社

参考図書

「保育とカリキュラム」ひかりのくに社
幼稚園教育指導資料第5集「指導と評価に生かす記録」チャイルド社

留意事項

免許取得のための教育実習に向けた授業であることを十分心得ること。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
介護等の体験(事前指導)	教職小		17697	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	1				

授業の到達目標

「介護等体験」の意義を理解する。社会福祉施設や特別支援学校について、基本的な知識を身に付ける。「介護等体験」でかかわる人々の状況を理解する。「介護等体験」にあたっての心構えや留意点を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）、S（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要

いわゆる「介護等体験特例法」は、「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる」としている。授業では、この法律の趣旨を理解できるように指導する。社会福祉施設（5日間）と特別支援学校（2日間）において「介護等体験」を円滑に行い十分な成果を得るため、基本的な知識と技能を身に付けられるようにする。

授業計画

- 1 「介護等体験」の目的と概要
- 2 社会福祉施設 1
- 3 社会福祉施設 2
- 4 介護の心構えと実際
- 5 高齢者の心と身体
- 6 特別支援学校
- 7 障がいのある子どもとのかかわり方と「介護等体験」
- 8 「介護等体験」に臨む心構え・留意事項

授業の方法

講義とDVD視聴に加えて、プレゼンテーションやディスカッションをとりいれる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会
全国特別支援学校長会『介護等体験ガイドブック 新フィリア』ジ
アース教育新社

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

この授業は7.5回行う。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（幼稚園）Ⅱ			17707	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	選択	1	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

1 週間実習の成果と課題を生かして、さらに充実した3週間実習となるよう、教育実習の目的意識と実践力を確かなものにする。実習終了後は評価反省を行い、幼稚園教諭となるにふさわしい自分をめざす。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）の育成をめざす。

授業の概要

1 週間実習の成果と課題を自ら明確にし、3週間実習に意欲的に取り組めるようにする。実習で直面するであろう課題や問題点について、実践例をもとに教材研究などを具体的に学ぶ。実習終了後は自らの課題を明確にし、その課題克服に努める。

授業計画

- 1 実習園でのオリエンテーション（依頼電話のかけ方、訪問に際して等）
- 2 指導実習に向けての教材の作成①
- 3 "②
- 4 "③
- 5 絵本の読み聞かせとリズム遊び①
- 6 "②
- 7 実習園のオリエンテーションを受ける。
- 8 実習園の教育理念や指導方法を学ぶ。
- 9 指導実習に向けての教材研究と指導案の作成①
- 10 "②
- 11 実習記録の記入方法について
- 12 実習に向けて留意事項の再確認
- 13 礼状の作成
- 14 実習園の評価をもとに反省と考察を行い、課題を明確にする。
- 15 まとめ

授業の方法

実習園の教育方針について理解すると共に、教材研究や指導案の作成、実習記録の取り方など、実際に即した内容で授業を進める。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

- ①提出を求めるシート等について、授業内で評価と助言を行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

欠席について

必ず全回出席である。やむをえず欠席する場合は必ず事前に申し出ること。その場合のみ、1回につき3点減点する。

テキスト

「幼稚園教育実習の手引き」本学作成 「幼稚園教育要領解説」フレール館 「あそびうた大全集200」永岡書店 「実践！造形あそび」ナツメ社

参考図書

「教員をめざそう！」文部科学省

留意事項

免許取得のための教育実習に向けての授業であることを十分心得ておくこと。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論	教職幼小PC		17713	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員			

授業の到達目標

教育制度について、法的な知識をふまえながら、その概要を把握し、経営という観点から、学校を総合的・多面的に理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

現在の教育システムの在り方をとらえ、学校・学級経営の様々な場面に応じて、組織を有効に活用する教育経営論を学ぶ。教育について、制度及び経営という側面から考察していく。また、学校制度や教育関係法規から、学校教育の目的や教職員の職務等を学び、教師の職責について理解を深める。

授業計画

- 1 受講の心構え・授業規律・授業内容等についてのガイダンス、学校の種類と公教育
- 2 教育制度の歴史と発展 1
- 3 教育制度の歴史と発展 2
- 4 子どもの権利と人権 1
- 5 子どもの権利と人権 2
- 6 教育制度を学ぶ意義 1
- 7 教育制度を学ぶ意義 2
- 8 教育法 1
- 9 教育法 2
- 10 教育の目的と目標
- 11 学校の制度
- 12 義務教育の制度
- 13 教育の機会均等
- 14 教職員の制度
- 15 まとめ

授業の方法

考えを書く活動とグループディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に調べた

り、レポートを作成したりすること。授業時間の2倍程度の時間を準備学修（予習・復習）に費やすこと。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

出席については、大学が認める欠席以外考慮しない

テキスト

必要な場合授業時に指示する。

参考図書

川口洋誉・中山弘之『未来を創る 教育制度論』北樹出版

留意事項

出席と授業態度を重視する。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育指導法			17725	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	選択	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

幼児期の教育・保育の実践にあたり、基本となる教育内容の再認識と指導実践力の習得をめざす。この科目ではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

幼児期の教育の基本を再認識するとともに、視覚教材(PP)を通して、子どもの生活や遊びとはどのようなものが学ぶ。また教材研究と演習、指導案作成と模擬保育を通して、教師の役割について実践的な習得をめざす。

授業計画

- 1 幼児の生活と幼稚園の役割、幼児期の特性
- 2 幼児期の教育の基本(人格形成の基礎・環境を通して行う教育)
- 3 幼児期の教育の基本(5領域のねらい及び内容・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿・個々に応じた指導など)
- 4 幼児期の教育の基本(教師の役割、教職員間の連携)
- 5 教材研究と演習①ペーパーサポート シナリオと教材の作成
- 6 教材研究と演習②ペーパーサポート グループで協力し人形劇の完成
- 7 教材研究と演習③ペーパーサポート 各グループの演習と評価
- 8 保育内容の指導実践①基本的な生活習慣の育成・安全教育
- 9 保育内容の指導実践②いろいろな行事、自然を取り入れた活動
- 10 保育内容の指導実践③保護者との連携、子育ての支援・預かり保育
- 11 保育内容の指導実践④小学校教育との円滑な接続
- 12 教材作成と模擬保育①パネルシアターの作成
- 13 教材作成と模擬保育②パネルシアターを活用した保育指導案の作成
- 14 教材作成と模擬保育③指導案をもとに模擬保育
- 15 幼稚園で実際の保育体験と振り返り

授業の方法

実際の園生活の様子を視聴しながら講義を進める。加えて教材作成、実技演習、グループディスカッションなどを通して、実践的な指導力をつけていく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①教材作成のもと指導案作成と模擬保育を行い、授業内で教員によるフィードバックを行う。
- ②平常点30% 演習30% レポート等の提出40%

欠席について

1回の欠席につき3点減点とする。

テキスト

「幼稚園教育要領解説」(文部科学省)「保育所保育指針解説」(厚生労働省)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(内閣府・文部科学省・厚生労働省)「実践!造形あそび」(ナツメ社)「あそぶうた大全集200」(永岡書店)

参考図書

「初等教育資料」文部科学省「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について」文部科学省「幼児教育じほう」全国国公立幼稚園長会

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児理解の理論と方法(教育相談を含む)			17727	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

幼児の実態に即し、生育環境や集団の中での育ち合い等の多様な環境を背景とした幼児理解の意義を理解する。また、幼児の発達や学びを捉える基礎資料となる観察、記録の基礎的事項、多面的な考察と分析の重要性を理解する。幼児のつまずき等の発達上の課題や保護者の多様な思いに対応する保育者の姿勢やカウンセリングの方法を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)の育成を目指す。

授業の概要

幼児理解の意義と重要性を理解し、保育実践やエピソード記録、カンファレンスの実践を通して、幼児を多面的に理解する力を身に付ける。また、幼児の発達や生育環境など、幼児一人ひとりの実態に即した指導や、専門家を交えたチームでの対応方法、保護者の心情を理解した連携とカウンセリングマインドを基にした支援方法を身に付ける。

授業計画

- 1 幼児理解を踏まえた指導案の立案、実践後の省察を通じた幼児理解の深まりと保育の改善
- 2 統計や報道資料、保育実践から捉える幼児の発達に関わる様々な課題
- 3 幼児と保育者の信頼関係の構築及び他者との信頼関係を広げる保育者の援助
- 4 幼児期の発達と学びの理解
- 5 遊びを通じた協同性の育ちと保育者の援助の在り方
- 6 事例から捉える幼児の葛藤やつまずき等の内面理解及び個と集団の関係やその他の背景の理解
- 7 幼児理解に基づく保育者の個別支援の在り方及び幼児同士の育ち合いへの指導の在り方
- 8 幼児の発達や学びを捉え、保育に生かす観察及び記録の方法
- 9 演習:行動観察やエピソードの記録を通じた幼児理解
- 10 発表と協議:観察や記録の読み取り、幼児の多面的理解
- 11 幼児期の終わりまでに育って欲しい姿と小学校への接続
- 12 子育てに関する様々な課題と教育相談の在り方
- 13 カウンセリングマインドの重要性と基礎的な技法
- 14 演習:保護者対応を想定としたロールプレイから学ぶ心理解と支援の在り方
- 15 園内の協力的体制の構築と家庭や地域・専門機関との連携、まとめ、定期試験

授業の方法

保育実践の事例を取り入れ講義を行う。グループ討議や演習を行い、課題意識を持って主体的に取り組めるようにする。

準備学修

Webで詳細を参照とすること。
出された課題に前向きに取り組むこと。

課題・評価方法、その他

平常点50% 定期試験及び課題レポート50%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。
欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

「やさしく学べる保育カウンセリング」大竹直子 著 金子書房

参考図書

「どの子にもあ〜楽しかった!の毎日」赤木和重・岡村由紀子・金子明子・馬飼野陽美 著(ひとなる書房)
文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説」、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

留意事項

グループ演習等が多いため、毎回の出席と主体的な取り組みを心がけること。

教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。